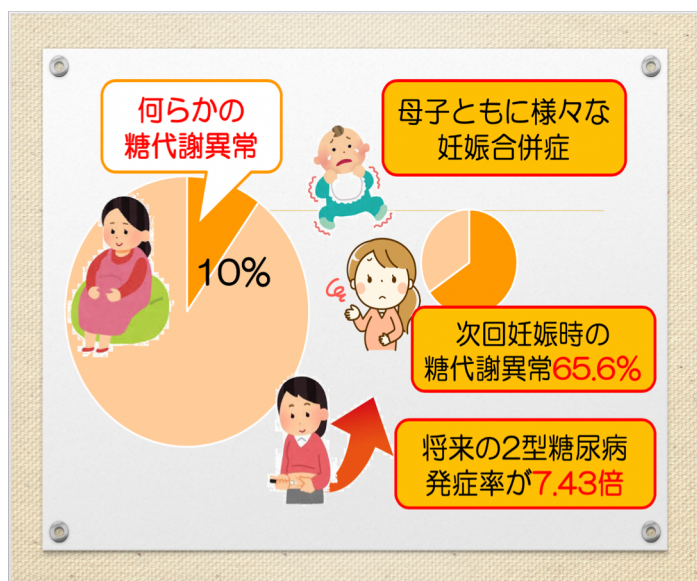


# 妊娠糖尿病妊産褥婦に対する 多職種連携・継続支援体制の構築に向けた 実態調査へのご協力のお願い

診断から産後のフォローまで支援を中断しないシステム作り



2015年に妊娠糖尿病の新しい基準が採用されました。

それに伴い、全妊婦の10%余りが何らかの糖代謝異常と診断されており、その数は年々増加しています。妊娠糖尿病は様々な母子妊娠合併症を引き起こすだけでなく、分娩後の将来的な母子の世代間に渡った糖代謝異常の問題に大きく影響を及ぼすことが指摘されています。

妊娠中の妊娠糖尿病の重症化はもちろん、産後の2型糖尿病発症予防を目的とした、支援・治療・健診等が中断されないような管理・支援対策が重要であると考えます。

しかし、現状として妊娠糖尿病妊産褥婦に対し、どのような支援が実施されているのかは明らかになっていません。

そこで、全国の実態調査を実施させていただきます。皆様のご協力をお願いします。

## 調査の概要

- ❖ 対象施設: 分娩を取り扱う医療施設
- ❖ 対象者: 看護管理者、もしくはそれに相当される看護職の方と、連携のある医療専門職(医師、栄養士等)
- ❖ 内容: 妊娠糖尿病と診断された妊産褥婦に関わっている医療職者による支援内容
- ❖ 調査票送付時期: 平成31年3月4日～

**3月20日**までに  
ご返信をお願いいたします

全ての母と子の支援に向けたシステムづくりへのご協力をお願いいたします。

【研究代表者 連絡先】  
聖路加国際大学大学院 看護学研究科 松永真由美

【共同研究者】  
アルテミス ウィメンズ ホスピタル 鶴見薫  
日本助産学会助産政策委員/聖路加国際大学 片岡弥恵子